



第22回創造性研究会報告 研究会タイトル:「創造の方程式」

講師: 小野修一郎氏 日本創造学会会員
(千葉工業大学社会システム科学部情報科学科)
開催日: 2012年7月14日

7月14日、近畿大学東京事務所において、第22回創造性研究会が開催された。今回の発表は、千葉工業大学社会システム科学部で、過去5年間行った文部科学省社会連携プロジェクト「地域産業における創造的人材育成プログラム開発」の中で、習志野商工会議所のメンバーと協力して、社員の創造力育成のための教育プログラムとして開発された成果である。小野先生は、本来、化学技術の研究者であるが、その成分分析の手法を応用し、様々な分野から、数百の創造事例を集め、特性を抽出、整理した結果「創造とは、新しい情報の生産であり、新しい情報は2つの既知情報の結合から生まれる」と結論づけた。これを K (既知情報)→ A (既知からの具体的課題)* B (類想情報)= N (ひらめかれた答え)という3つのパラメーターの相関から創造された解 N を導く手法として提出した。質疑応答では、 A と B の結合を導く*が決め手となるが、その結合パターンは26の結合パターンに分類されているが、これを数個に集約することでより普及の道が開けやすいなどの指摘があった。別件として、注目が集まったのは、助成金公募に対し、お一人で申請し、採用された申請書の書き方であった。審査官のわかりやすいキーワードである、地域、人材、創造、教育を理解しやすいように構成されたそうである。
(報告: 任命理事 田村新吾)

第23回研究会テーマ:

「私の海外研修報告 スウェーデン教育・福祉の現在」

開催日: 2012年12月15日

講師: 西浦和樹氏 宮城学院女子大学 発達臨床学科教授(教育心理学)



大入りの聴衆の研究会となったが、西浦先生の家族でのスウェーデン体験滞在記は、スウェーデンの教育の制度を、先生のみならず、家族全員が楽しく体験留学されたのがよく分かった。

まず開講一番、OECDの良い生活(Better Life Index)の世界各国比較で、スウェーデンはトップにあることから説明が始まった。滞在先は、リンショーピング市のリンショーピング大学で、首都ストックホルムから車で南西に2時間。都市の人口が13万人。1年弱の滞在に借りた家がすごく広い!庭が広い!庭のサクランボが食べ放題!庭をかわいいハリネズミが走る。家族での生活を心から楽しんだという。たかさんの写真から、家族の幸せがあふれていた。

スウェーデンの教育制度の説明も詳しくされたが、家族の子供たちの現地でのビョンシャー小学校への編入と同化が興味深かった。サッカークラブ、バイオリンのズキメソッドなども、参加されていた。おもしろいのはSFI(Swedish for Immigrants)による移民教育だった。

リンショーピング市の大学を基点に、西浦先生は、スウェーデン国内の様々な学校をどんどん訪問された。ストックホルムまでは、子供たちのために、日本人補習校に通い、ヨーテボリの小学校、マルメ、ヘルシンボリの自然学校、ヒルテの小学校など。またECP2011(European Congress of Psychology in Istanbul)にも参加されたという。

スウェーデンに滞在された印象として:

(1)体育: 日本の方が上位 (2)数学: 日本の方が上位 (3)英語: スウェーデンが上位
(4)理科 分からない (5)論理的思考力、創造的思考力、批判的思考力などすべてスウェーデンが進んでいるとのこと。

また、アウトドア環境教育が一般的だ。生きる力を育むアウトドア教育。とにかく体験と経験主義の教育が徹底している。とにかく科学技術基礎概念の理解度は、世界一のスウェーデン(日本は13位)での教育制度を家族で体験された西浦先生の話は楽しかった。

家族生活体験式研究発表であつという間の時間が過ぎた。西浦先生の滞在もあつという間に1年が過ぎたという。それだけ楽しかったのだろう。
(報告: 樋口健夫理事)